デフアスリートに迫る

池田ブライアン雅貴さん

聴覚障害者を「デフ」と呼ぶことがある。デフリンピックは、聴覚障害者のための国際的なスポーツの祭典だ。池田ブライアン雅貴さん（総4）はデフアスリートであり、かつSFCで「聴覚障害児のスポーツ教育」について研究をしている。耳に障害がありながら、彼は小学生で始めた陸上を慶大體育會競走部でも続けてきた。

冒頭に紹介したデフリンピックは、スポーツをするにあたって他の障害者とは別の配慮があることから、パラリンピックとは完全に別の大会として扱われている。認知度は低く、スポンサーを得るのが難しい。つまりデフアスリートはそのスポーツを継続していくことが非常に厳しいのだ。池田さんは、高校生まで健常者の試合に出場し、たまにデフの試合にも参加した。大学2年次にデフリンピックに出場し文部科学大臣表彰を受賞したが、大学入学以前からデフスポーツの認知度の低さに疑問を持っていた。その後、さまざまな道を歩みながらSFCでスポーツコミュニケーションなどを専門とする、東海林准教授の研究室にたどり着いた。

デフアスリートとして活躍する池田ブライアン雅貴さん

彼は、研究をする中で、デフの幼少期の教育環境がその後の運動能力の低さ、そしてデフスポーツの認知度の低さにつながっていると結論づけた。言語習得に膨大な時間がかかる分、運動をする時間は健常児に比べて甚だしく短い。また聾学校では十分に専門的な指導は受けられない。そのような事情を洗い出す中で、デフの運動能力の低さだけでなく、デフスポーツを社会に発信する人も少ないことも分かった。

また、研究の一環で支援学校に赴くことがあった。現在の聴覚障害児童はこれまでの補聴器より性能の良い、人工内耳の導入が進んでいる。言語習得に必要な時間が短縮され、よりスポーツに時間を費やすことが可能になりつつあるのだ。「科学と医学の進歩がデフスポーツの活性化につながる。デフアスリートが安心して競技を継続できる環境を整える必要がある」と語る。

卒業後は、とあるシンクタンク・コンサルティングファームの正社員として先輩社員業務に携わりながらも、競技を継続する。直近の大きな目標は来年のブラジルで開催されるデフリンピックで優勝することだ。「小さなことが成し遂げられない人は大きなことも成し遂げられない」という家族の言葉を胸に日々の練習に励む。

結果を出し、積極的に発信することで、社会に広く周知してもらう。そして少しでもデフアスリートの練習環境改善に貢献したい、そう考えている。

「メダルを取ったのに注目されないのは悔しい」。仲間のデフアスリートがこぼした言葉だ。次の世代のデフたちにはそのような思いをさせないという強い意志を感じる。

（河野優梨花）

アイヌを「かっこいい」に

～大学生が発信する価値～

関根摩耶さん（総3）は、北海道の二風谷という地域で育ったアイヌだ。彼女は慶大のゼミで学生としてアイヌについて学ぶかたわら、アイヌの魅力を伝えようと積極的に活動している。

昨年の4月から、ユーチューブチャンネル「しとちゃんねる」でアイヌの文化や言語を発信している。

彼女はどのような想いで発信しているのか、何が彼女を動かすのか、率直な話を聞いた。

○学び伝え知った喜び

私の母方は、元来アイヌ文化を積極的に伝えてきた家系です。アイヌ文化の第一人者とも深い交流があります。父はアイヌではないですが、もともと言語が好きだったため、アイヌ語に関心を持って学んでいました。私はそうしたアイヌのことを広く学べる、そして学ぶと褒めてくれる、喜んでくれる家庭で育ちました。とても恵まれていたように思います。身近な存在が一番喜んでくれるのがアイヌに関わっていくことだと気づいた頃から、「ただ安穏と過ごしていてはダメだ」と思うようになりました。たくさんの本や資料を読み、家族や知り合いのアイヌに話を聞きに行ったりして、アイヌのことを学び直しました。

アイヌ語教室に通い続けてくれている後輩の親御さんが、「摩耶が今アイヌ文化を楽しそうに発信し続けてくれるおかげで、アイヌのイメージが変わってきているよ」と言ってくれるのが、嬉しいですね。活動してきて本当に良かったと思います。こうした身近な存在が、アイヌを伝えるモチベーションになっています。

○アイヌを動かす社会を

世界全体で文化の多様性が叫ばれる中、特にそうした流れに乗り遅れている日本でしたが、オリンピックという文化交流の機会とともに、先住民政策に意欲的に取り組み始めます。

ただ、アイヌ全体がその変化に追いつけていない気がしていて。私のような、アイヌ文化を学ぶ機会に恵まれていたアイヌばかり注目されているように感じます。

祖先にアイヌを持つ人たちも、今は皆さんと同じような授業を受けています。自らアイヌのことを学ぼうとしなければ、授業で学ぶ知識以上のことは得られない。

一部のアイヌの人が置いていかれている状況ができてしまっているように感じます。

だからこそ、アイヌの素敵な文化や価値観を発信することで、アイヌを「かっこいいな」「羨ましいな」という声を作りたい。そうして社会の流れを変えることで、アイヌ自身が自分の文化に誇りを持ち、調べるようになってもらいたい。だから私は明るく楽しくアイヌの文化を伝えるように、心がけています。

○関根摩耶のポジション

私は、アイヌに興味を持ってくれた人が、アイヌに難解さを感じて去っていってしまうのは、あまりにもったいないと感じていて。

その窓口を広げていけるのが、私のポジションだと思っています。研究者や政府にはできない、バックに何もない、ひとりの大学生ができること。アイヌの人も、そうではない人も、ユーチューブはアクセスしやすい媒体だと思うんです。

そして私は、アイヌの人々にとっても、アクセスしやすい媒体でありたい。私は多くのアイヌの人にも、孫とか姪を見る感覚で、ユーチューブを通して「アイヌ」の魅力を知ってもらいたいです。

アイヌを意識せずに通り過ぎることができる世界になったら嬉しいですね。同じ世界に多様性があるのが私の理想です。

（聞き手　金子茉莉佳）

関根摩耶さん

外国語教育のすゝめ

英語だけでは不十分なこれから

七字眞明教授

1年分の講義の選択で多くの塾生が頭を悩ませる4月。慶大に入学し、どの講義を履修するか迷っている新入生も、心機一転新しく何かを始めたい在学生も、今年は外国語学習に力を入れてみてはどうだろうか。

慶大は各学部とは別に、「外国語教育研究センター」（外セ）という機関を設置しており、塾生向けの「特設科目」と「オープン科目（各学部が設置し他学部生も履修可能）」、そして塾生以外も受講できる「公開講座慶應外語」を開設している。大多数の塾生が学習している英語から、アラビア語やインドネシア語、ラテン語、といった学習者の少ない言語まで、合計15言語を学ぶことができる。

今この記事を読んでいる塾生の中には、「英語だけでいっぱいいっぱいで他の言語を学ぶ余裕はない」「そもそも英語以外の言語を学ぶ意義などあるのか」と思った人もいるかもしれない。社会の中にも存在するそのような意見に対し、所長の七字眞明教授（経済学部・ドイツ語）は「日本では第2、第3外国語よりも英語の習得が優先される傾向にありますが、その後ろ向きの発想が多くの国益を損ねてきました」と話す。

もちろん現在の社会では英語が最も重要であるものの、ビジネスにおいても学術研究においても、決して英語だけでは解決できない領域が存在する。ビジネスの分野でいうと、日本企業は他国の企業に比べて英語以外の言語を話せる従業員が少ない。そのため、経営トップ同士の英語での交渉は行えても、展開先で話されている言語を使った交渉では不利になる。

また特定の地域における何かを調べたり研究したりする際にも、日本語や英語だけでは十分な情報が得られないため、現地の言葉は不可欠になる。そして、2020年は「外国語」にとって重要な年になると教授は語る。

2020年には東京オリンピック・パラリンピックで世界中のスポーツ関係者やメディア関係者が日本を訪れる。慶大も日吉キャンパスにおいて、英国代表チームの事前キャンプを受け入れることになっている。また5Gと呼ばれる新たな通信規格の商用化が見込まれており、大量のデータの送受信が可能となることで、自動翻訳の技術も向上すると予想される。自動翻訳によって英語を介さずに直接コミュニケーションが取れるようになれば、「国際共通語」としての英語の地位自体が揺らぐ可能性もある。

かといって、自動翻訳で全てが解決するわけでもない。各言語には人々の使う言葉をある程度標準化した「規範」が存在する。しかし地域や話者ごとに言葉は少しずつ変化し、「規範」から「逸脱」したものが生まれる。それこそが言語文化の持つダイナミズムであるが、今の技術では一つの言語の「規範」はデータ化できても一人一人が使う言葉の「逸脱」は拾うことができない。

「英語の運用能力は全ての塾生が身に付けるべきですが、一部の学生には在学中に一つの言語を徹底的に学び、卒業後にその地域で活躍する『専門家』になってほしいです」と教授。今年は外国語の習得に力を入れてみてはいかがだろうか。

（高木瞳）

広告

AIで学ぼう！プログラミング

「慶應義塾大学AI・高度プログラミングコンソーシアム」（略してAIC）は、人工知能や機械学習、高度プログラミングに興味のある塾生が集い、自主的に勉強できる学びの場です。学部や学年、またプログラミングの習熟度も問いません。既にプログラミングに習熟している人はもちろん、全くの初心者でも参加を歓迎します。

プログラミング初心者を対象としてPythonの使い方から学習する講習会も開催しています。

本年度開催予定の講習会は図の通りです。またプログラミングコンテスト、ハッカソン、企業の方をお招きしての講演会等のイベントも多数開催予定です。

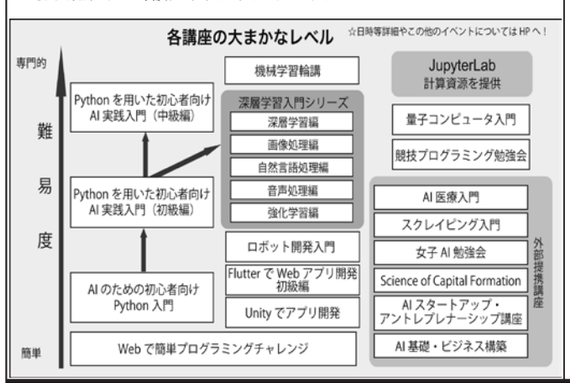
開催日、詳しい内容など詳細はサイトでご確認ください。また申し込みも、こちらのサイトをご利用ください。（https://aic.keio.ac.jp/）全て参加費不要です。

やる気に満ち溢れた皆様のご参加をお待ちしております！

（広告）

▲公式サイト　▲公式LINEアカウント

AIConsortium
慶應義塾大学AI・高度プログラミングコンソーシアム



連載　塾生のギモン

第1回　お酒は飲んでも飲まれるな

久里浜医療センター　教育情報部長　真栄里 仁 医師

塾生からのさまざまな疑問を、その分野に詳しい先生に解決してもらうこのコーナー。第1回のテーマは「大学生とお酒との向き合い方」だ。20歳を超え飲酒を経験する際に最低限必要な知識を身につけよう。（聞き手 水口侑）

―まずそもそもなぜ人はお酒を飲むのですか。（K・Sさん）

依存性物質という点では、お酒は大麻や覚醒剤などと大きくは変わりません。にもかかわらずお酒だけ許容されているのは、科学的・医学的な根拠よりも文化的な要因が大きいです。コンパでお酒が入ると会話が弾むように、お酒は嗜好品であると同時に、コミュニケーションツールとして社会的な役割を担っています。これが、お酒が長きにわたり飲まれている理由だと思いますね。

―「お酒は飲めば飲むほど強くなる」というのは本当ですか。（T・Uさん）

正直に言えば本当です（笑）。ただ、強く鍛えれば良いかというとそういうわけではありません。日本人の半数はお酒に弱い体質であり、そういった人がたくさん飲むと、確かにお酒には強くなりますが、食道がんや大腸がんといった病気になる可能性が大幅に高くなります。「お酒に強くなった＝良いことではなく、強くなったということはそれだけ体に無理をさせているということを忘れないでほしいです。お酒に強くなったからといって出世できるわけではありませんよ（笑）。

―「ほろよい」をジュース感覚で飲んでしまいます。（Y・Mさん）

「ほろよい」などの度数の低いお酒は飲みやすいこともあり、飲酒量に気を付けなければなりません。アルコールは、飲んだ直後は体に吸収されません。飲酒量にもよりますが、吸収のピークは1時間弱後。「自分は酔っていない」と思ってたくさん飲むと数十分後に急激に酔いが回るので、度数の低いお酒は特に注意が必要です。

―ストロング缶でしか酔えなくなりました。（H・Mさん）

度数の高いお酒を欲するようになってきたら、お酒に依存し始めているので「まずいな」と思ってほしいです。身体への影響面では度数は関係なく、トータルのアルコール摂取量が問題になってきます。度数の低いお酒では満足できなくなり、度数の高いものを飲むようになってきたら依存症のリスクが高まっていることを自覚してください。目的が、本来の「おいしいから飲む」から、「酔うために飲む」へ変わってきたら注意が必要です。

―女性が特に気を付けなければならないことはありますか。（M・Kさん）

いくつかあります。小柄な女性は肝臓が小さく、血中アルコール濃度が上がりやすく下がりにくいため、実は男性に比べて酔いがひどくなりやすいです。さらに、ホルモンなどの関係で、男性より少量のアルコールでも肝障害が生じやすいといわれています。また、母親の妊娠中の飲酒は胎児性アルコール症候群という障害を胎児に与えてしまうので、絶対にしてはいけません。

―先生が思う正しい飲酒法を聞かせてください。（聞き手）

まずは、未成年飲酒は絶対にあってはなりません。20代の飲酒は車でいうところの初心者マークです。免許を持ったからといって時速200キロ出して良いわけではありませんよね。量を飲めるのが良い酒飲みだと思われがちですが、お酒の持つ魅力を楽しみながら、問題行動を起こさないように、健康的に長く付き合える人がスマートドリンカーだと思います。

合格するならやっぱりTAC！

TACなら公認会計士に合格できる！

新試験制度制定後 2006年～2019年
公認会計士論文式試験
TAC本科生合格者
累計実績 8,617名

2006年	633名	2014年	415名
2007年	1,320名	2015年	372名
2008年	1,170名	2016年	385名
2009年	806名	2017年	352名
2010年	885名	2018年	357名
2011年	554名	2019年	360名
2012年	550名		
2013年	458名	計	8,617名

慶應生の皆さまに贈る
公認会計士 全7回 まるごと無料体験!!
豪華参加特典 もれなくプレゼント!

公認会計士入門講義　日商簿記3級完全対応

毎年数多くの「慶應大学出身 会計士試験合格者」を輩出している資格の学校TACが、慶應生の皆さまを対象に公認会計士の導入部分である「入門講義（全7回）」をまるごと無料で実施いたします。会計士を目指す方はもちろん、会計に少しでも興味をお持ちの慶應生の方は、是非この機会にご参加ください!

公認会計士入門講座 全7回 初回（1回目）講義日程　講義時間／18:30～21:30

A日程	B日程	C日程
4/2(木) OR 4/3(金)	4/7(火) OR 4/8(水)	4/20(月)
4/4(土) 14:00～17:00 OR 4/6(月)	4/14(火) OR 4/15(水)	OR 4/22(水) 4/24(金)

場所 TAC日吉校　受講方法 開講日当日に直接TAC日吉校へお越しください。

★上記以外の日程も多数ございます。★無料体験講義はビデオブースでも受講できます。ビデオブース視聴の場合は自由に日時を選べます。

参加特典 もれなくプレゼント!　先着100名!
履修情報誌「リシュルート2020」
QUOカード 500円分
合格テキスト・トレーニング問題集
TAC入会金（¥10,000）免除券
慶應大学生協 利用券 500円分

井上 直樹 講師　藤野 伸哉 講師　安達 直輝 講師
慶應の先輩講師から学べる!!

慶應生のための
TAC日吉校
045(560)6166(代)
〒223-0062 横浜市港北区日吉本町1-5-21
受付営業時間　月～土 ／9:00～19:00　日 ／9:00～17:30
東急東横線日吉駅西口より徒歩3分

※上記写真は、TAC合格祝賀会（東京会場）にご出席の合格者となります。　※TAC本科生合格者とは、目標年度の試験に合格するために必要と考えられる講義・答案練習・公開模試・試験委員対策・法令改正等をパッケージ化したTACのコースにおいて、合格に必要な科目を全て受講し、かつ最終合格された方を指します。なお、過年度の科目合格者が最終合格された場合、①合格に必要な科目をTACで全て受講し、かつ②受講した年度に科目合格している方は、合格者に含めています。